



# IYC2025ニュース第9号

2025年5月9日発行

編集  
・  
発行

2025国際協同組合年全国実行委員会 <https://www.japan.coop/iy2025/>

事務局 一般社団法人 日本協同組合連携機構  
東京都新宿区市谷船河原町11番地 飯田橋レインボービル5階  
E-mail: iyc2025@japan.coop TEL: 03-6280-7254



## 【contents①】

- ① 7月5日(土)「見て、聞いて、体験 協同組合フェスティバル」のロゴができました
- ② “協同”がよりよい世界を築く～連続シンポジウム・座談会
  - 5月15日(木) シンポジウム「協同組合とディーセント・ワーク(働きがいのある人間らしい仕事)開催案内
  - 7月14日(月) シンポジウム「防災・減災・生活再建と地域づくりへの貢献」(仮)開催案内
  - シンポジウム「協同組合と国際協力」の動画をアップしました
- ③ #協同のチカラ を発信しよう！ムービーコンテストを開催します
- ④ 2025国際協同組合年広報資材・ノベルティグッズの受注継続のご案内

## 【contents②】

### ⑤全国各地の2025国際協同組合年の取り組み

- 島根県でIYC2025学習交流会を開催～県生協連創立50周年記念式典にあわせて～
- 和歌山県生協連がIYC2025を学び伝える役職員研修会を開催
- 鳥取県でIYC2025の取り組みがスタート～平井県知事が駆け付けエール～
- 広島県でIYC2025学習会を開催～地域コミュニティをテーマに学び合い～
- 「KJC協同組合研究会」が開催され、協同組合について学びました
- 茨城県で「協同組合クイズキャンペーン」がスタートしました
- 茨城県で講演会「賀川豊彦の思想と実践…2025年国際協同組合年を迎えて」が開催
- 東京都で「2025国際協同組合年東京都実行委員会」が設立～9団体で結成～
- 長野県協同組合連絡会が通常総会を開催～IYC2025をテーマにJCAが講演～
- 茨城県で「学習プログラム紹介パンフレット」を作成し、小中学校へ周知～協同組合を次の世代につなぐ～
- 2025年度千葉大学寄附講座が開講されました
- 茨城大学の寄付講座「協同組合論」で講義しました
- 鹿児島県協同組合協議会(KJC)の主催で2025国際協同組合年 映画「二宮金次郎」を上映
- 山口県でIYC2025実行委員会形成にむけた幹事団体代表者会議を開催～連携組織の構築を見据えて～

### ① 7月5日(土)「見て、聞いて、体験 協同組合フェスティバル」のロゴができました



既にご案内のとおり、国連の定めた「国際協同組合年」の7月第1土曜日（国際協同組合デー）に「見て、聞いて、体験 協同組合フェスティバル」を開催します。協同組合やSDGsについて、“見て、聞いて、体験”できるいろいろな協同組合のブ

ース出展やJAファーマーズマーケットによる新鮮な農産物の販売、スペシャルゲストによるステージ、シンポジウム、スタンプラリーなど、誰でも楽しんで学べる、そして未来のヒントが見つかる企画が盛りだくさんです。

このフェスティバルのロゴマークができました。今後、情報をまとめてお知らせするご案内ページなどに使用してまいりますので、よろしくお願いします。

#### 【開催概要】

1. 日時：2025年7月5日（土）10時～16時（予定）

2. 会場：東京国際フォーラム（JR・東京メトロ有楽町駅下車）ホールE 2、ホールD 1
3. 入場料：無料
4. 主催：2025国際協同組合年全国実行委員会（事務局：日本協同組合連携機構）

## ② “協同”がよりよい世界を築く～連続シンポジウム・座談会

全国各地で協同組合は、持続可能な地域社会づくりに向け、さまざまな取り組みを進めています。そして国連は2025国際協同組合年を定め、持続可能な開発目標（SDGs）への協同組合の貢献についての認知を広げ協同組合を振興することを提起しています。

2025国際協同組合年全国実行委員会では、SDGsにつながる9つの社会的課題について、協同組合が協同組合同士、そして行政・諸団体などとともにどのように取り組んできたのか、そして今後の課題は何かを明らかにする連続シンポジウム・座談会を開催します。

協同組合関係者はもとよりこれらの社会的課題とSDGsに関心を持つ皆さまの幅広いご参加を呼びかけます。

### ● 5月15日(木) シンポジウム「協同組合とディーセント・ワーク(働きがいのある人間らしい仕事)開催案内

「ディーセント・ワーク」とは「働きがいのある人間らしい仕事」のことを指し、SDGsの目標にも「包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する」とあるように、その実現は社会全体の課題です。

本シンポジウムでは、ディーセント・ワークの概念や歴史、そして現代日本におけるディーセント・ワークの実現に向けた課題を確認します。そして、協同組合における取り組み事例の報告を受けて、社会や協同組合としてディーセント・ワークの実現にどのように取り組むべきかについて論議します。

働きやすい環境づくりや社会的包摂、地域福祉などにご関心をお持ちの皆さまのご参加をお待ちしています。

1. 日時：2025年5月15日（木）14:00～16:30（13:30開場）
2. 会場：家の光会館 7階 コンベンションホール  
東京都新宿区市谷船河原町11  
( <https://www.ienohikariss.co.jp/bld/access/> )
3. 開催方式：シンポジウム(対面&オンライン) ※後日動画を公開
4. 主催：2025国際協同組合年全国実行委員会
5. 参加費：無料
6. プログラム  
開会挨拶・趣旨説明



講演①「ディーセント・ワーク実現に向けて～人権尊重経営の先駆者としての協同組合の役割～」国際労働機関（ILO）駐日代表 高崎 真一氏

②「誰もが自分らしく生き・働くことができる社会を目指して」  
生活困窮者自立支援全国ネットワーク代表理事・特定非営利活動法人抱樸  
理事長 奥田 知志氏

事例報告 ①（一社）市民連帯経済つながる神奈川 理事 落合 純子 氏（労働者協同  
組合ワーカーズ・コレクティブ・キャリア前理事長）

②労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団 北海道事業本部  
札幌中央事業所 まちなかキッズサロンおどりんこ 三宅 皓氏

③北海道労働金庫 地域共生推進室室長 槇田 恵治 氏

7. 申込方法：下記申し込みフォームよりお申し込みください。

<https://ws.formzu.net/fgen/S82303768/>



申込締切：会場参加・・・5月12日（月）

オンライン参加・オンデマンド配信・・・5月12日（月）

8. お問い合わせ先：2025国際協同組合年全国実行委員会 事務局

日本協同組合連携機構（JCA）IYCプロジェクトチーム

担当：大菊 [y-ogiku@japan.coop](mailto:y-ogiku@japan.coop) 03-6280-7254

藤田 [c-fujita@japan.coop](mailto:c-fujita@japan.coop) 03-6280-7214

## ● 7月14日(月) シンポジウム「防災・減災・生活再建と地域づくりへの貢献」(仮)開催案内

さまざまな自然災害はいつでもどこでも起こり得るものであり、災害が激甚化・頻発化する中、事前の防災・減災、そして被災後の生活再建のための備えの重要性は増すばかりです。国や自治体はさまざまな取り組みを進めていますが、地域や職場の人々の相互扶助の組織である協同組合への期待も高まっています。

防災・減災、そして復旧・復興を社会全体でどのように進めるべきかについて学び、“災害に強い（レジリエントな）地域づくり”について論議するとともに、協同組合が事業・活動を通じてどのように貢献しているのか、そして今後いっそう貢献していくための課題を明らかにするシンポジウムを開催します。

1. 日時：2025年7月14日（月）14:00～16:30（13:30開場）

2. 会場：主婦会館プラザエフ 9階スズラン 東京都千代田区六番町15番地  
（アクセス）JR四ツ谷駅麴町口徒歩1分・東京メトロ丸ノ内線四ツ谷駅1番  
出口徒歩3分

3. 開催方式：会場参加 + WEB参加併催（ハイブリッド）＊後日動画を公開

4. 主催：2025国際協同組合年全国実行委員会

5. 参加費：無料

6. プログラム（予定）

開会挨拶・趣旨説明

講演①「自助・共助・公助の総和を最大化する共生・共助のあり方」（仮）東京大

学教授 加藤孝明氏

講演②「被災者支援の現場から見てきたこと」特定非営利活動法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)事務局長 明城徹也

事例報告①こくみん共済coop

②コープいしかわ

③コープ共済連

④JA共済連

登壇者によるパネルディスカッション

閉会挨拶・まとめ

7. 申込方法：下記申し込みフォームよりお申し込みください。

<https://ws.formzu.net/fgen/S9357051/>

申込締切：会場参加・・・7月7日（月）

WEB参加・オンデマンド配信・・・7月10日（木）

8. お問い合わせ先：日本協同組合連携機構（JCA）IYCプロジェクトチーム

担当：丹後 03-6280-7275 s-tango@japan.coop

藤田 03-6280-7214 c-fujita@japan.coop



## ● シンポジウム「協同組合と国際協力」の動画をアップしました

4月11日に開催しました「協同組合と国際協力」の動画を公式YouTubeに公開しました。ぜひご覧ください。

<https://youtu.be/c46DKMLCCos>



### “協同”がよりよい世界を築く～連続シンポジウム・座談会のテーマと予定



テーマ	日時・会場
協同組合と国際協力	4月11日（金）14:30～16:30 家の光会館7階 コンベンションホール
協同組合とディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）	5月15日（木）14:00～16:30 家の光会館7階 コンベンションホール
環境と調和のとれた食料・農林水産業の確立	6月12日（木）＊収録／6月下旬頃オンデマンド配信予定
協同組合とSDGs	7月5日（土）時間未定 東京国際フォーラムホールD1
防災・減災・生活再建と地域づくり（仮）	7月14日（月）14:00～16:30 主婦会館プラザエフ 9階スズラン
子ども・若者の育ちと自立を支える地域づくり（仮）	10月10日（金）＊時間・会場未定
食料安全保障（仮）	10月21日（火）＊時間・会場未定
自分らしく、いつまでも安心して暮らし続けることができる地域づくり（仮）	未定（11月）
ジェンダー平等を実現する（仮）	未定（11月～12月）

### ③#協同のチカラ を発信しよう！ムービーコンテストを開催します

地域や暮らしを支える協同組合は「助け合い、力を合わせることを大切にし、社会のさまざまな課題に取り組み、持続可能な開発目標（SDGs）に貢献しています。そうした協同組合の取り組みを、動画で表現し、その価値や魅力を社会全体に発信していくために、「協同組合がよりよい世界を築く～チャレンジムービーコンテスト2025」（略称「協同組合のチカラ！ムービーコンテスト」）を実施します。

協同組合の未来を動画を通じたコミュニケーションで切り拓いていくために、ぜひともご参加ください。

#### 【実施概要】

1. 応募資格：日本で活動する協同組合および協同組合関連組織
2. 動画の内容：協同組合の価値・魅力や協同組合の持続可能な開発目標（SDGs）への貢献についての理解・共感につながる動画
3. 部門：ショート動画部門、ロング動画部門の2つの部門があります。
4. 手軽に作って友達に広げるショート動画部門
  - （1）動画の長さ：30秒程度、60秒以内
  - （2）動画を公開するSNS：Instagram※応募される組織等のアカウントでの公開です
  - （3）応募手順  
【STEP1】2025国際協同組合年全国実行委員会Instagram (@iyc2025\_Japan\_Committee) をフォローします。  
【STEP2】作成した動画にハッシュタグ #協同のチカラ を付けて投稿します。
- （4）応募受付期間：5月1日（木）～11月30日（日）
- （5）表彰 いいね！賞：Instagramの「いいね」数1～5位の動画（賞金1万円）
5. じっくり想いを伝えるロング動画部門
  - （1）動画の長さ：3分以内
  - （2）動画を公開するSNS：YouTube ※2025国際協同組合年実行委員会の公式YouTubeチャンネルで公開します。  
<https://www.youtube.com/@2025%E5%9B%BD%E9%9A%9B%E5%8D%94%E5%90%8C%E7%B5%84%E5%90%88%E5%B9%B4>
  - （3）応募手順  
【STEP1】所定の様式（Word・PDF）に記入し、10月1日（水）に公開される応募フォームから送信します。  
【STEP2】応募受付完了メールに記載されたメールアドレス宛に、応募動画を送付します。※必要に応じて、任意のファイル転送サービスやオンラインストレージサービスを使用してください。
  - （4）応募受付期間：10月1日（水）～11月30日（日）
  - （5）表彰：IYC2025賞 協同組合の持続可能な開発目標（SDGs）に貢献する取り

組みへの理解と共感の促進の観点から最も優れた動画（賞金10万円）  
いいね！賞：YouTubeの「高評価」が最も多い動画（賞金5万円）  
※応募フォームは2025年10月1日（水）に公開します  
応募様式はこちら  
（Word）



[https://www.japan.coop/wp/wp-content/uploads/2025/05/IYC2025movie\\_contest\\_entry.docx](https://www.japan.coop/wp/wp-content/uploads/2025/05/IYC2025movie_contest_entry.docx)  
（PDF）



[https://www.japan.coop/wp/wp-content/uploads/2025/05/IYC2025movie\\_contest\\_entry.pdf](https://www.japan.coop/wp/wp-content/uploads/2025/05/IYC2025movie_contest_entry.pdf)

※表彰はショート動画部門、ロング動画部門ともに第3回2025国際協同組合年全国実行委員会（2026年3月24日開催予定）にて実施します。

※応募についての詳細は「協同組合がよりよい世界を築く～チャレンジムービーコンテスト2025」応募要項でご確認ください。



<https://www.japan.coop/wp/wp-content/uploads/2025/05/8ad01f91f799c0996756dc4cc61de81a-1.pdf>

6. お問い合わせ先：日本協同組合連携機構 IYCプロジェクトチーム  
藤田 E-mail : c-fujita@japan.coop Tel : 03-6280-7254

## ⑤2025国際協同組合年広報資材・ノベルティグッズの受注継続のご案内

2025国際協同組合年広報資材・ノベルティグッズ第3次受注は4月30日（水）で終了しましたが、在庫品につきましては、引き続き受注を継続いたします。

家の光協会の「国際協同組合年（IYC）関連グッズのあっせん」のページからご注文ください。<https://www.ienohikari.net/iyc>

準備ができ次第順次発送となります。在庫がなくなった段階で、受注は終了させていただきます。



### 【お問い合わせ先】

①注文・納品・支払いに関して：

（一社）家の光協会 制作本部 制作・広告部

Eメール：[iyc2025@ienohikari.or.jp](mailto:iyc2025@ienohikari.or.jp) 電話：03-3266-9045

FAX：03-3266-9046

②広報資材およびノベルティグッズの内容や活用等に関して：

（一社）日本協同組合連携機構 IYC2025事務局（担当：高山・大菊）

Eメール：[iyc2025@japan.coop](mailto:iyc2025@japan.coop) 電話：03-6280-7254

## ⑥全国各地の2025国際協同組合年の取り組み

### ● 島根県でIYC2025学習交流会を開催 ～県生協連創立50周年記念式典にあわせて～

2025年3月19日、島根県協同組合連絡協議会は国際協同組合年に関する学習交流会を開催しました。同協議会は、生協・農協・森林組合・労協・労金の5つの協同組合で構成されています。今回の学習交流会は、県生協連創立50周年の記念式典とあわせて実施されました。

当日は、日本協同組合連携機構（JCA）の特別研究員である栗本昭が、国際協同組合年と協同組合のアイデンティティについて説明しました。また、地域社会に果たす協同組合の役割を国内外の事例を交えて紹介しました。

同協議会では、島根大学での協同組合講座の新設や海外視察の実施など、国際協同組合年をきっかけに様々な取り組みを行う予定です。県内協同組合の活動を紹介する資料制作もこの一環で、IYC2025のロゴが入ったリーフレットは学習交流会の会場でも配布されました。



記念講演で登壇する栗本特別研究員(JCA)

### ● 和歌山県生協連がIYC2025を学び伝える役職員研修会を開催

和歌山県生活協同組合連合会(以下「和歌山県生協連」)が主催する2024年度役職員研修会が、2024年3月12日(水)、2025国際協同組合年全国実行委員会認定事業として開催されました。

この研修会は、2025国際協同組合年が本番を迎えた中で、①協同組合のアイデンティティを学び考え、②国際協同組合年や協同組合についてみずからの言葉で説明し伝え



ることを考える機会とすることを目的に企画、会員生協からオンライン参加3名を含む19名の役職員が参加し実施されました。

冒頭の和歌山県生協連・大塚理事からの研修目的の説明を含むご挨拶に続き、JCA前田CI・国際・研究チーム部長が「協同組合のアイデンティティを考える－IYC2025の機会に－」をテーマに講演しました。講演では、国際協同組合年、協同組合のアイデンティティについての理解を深める一助となるようなベース情報が提供され、研修参加者においては、国際協同組合年の大切さ、行動し発信することの重要性、などの気づきもうかがわれたところです。

続いて『2025国際協同組合年を活かして「協同組合」を説明するセンテンス(文章)を考える』をテーマに、「2025国際協同組合年って何？」や「協同組合とは？」についての説明センテンスを考えるグループワークが進められました。

「2025国際協同組合年って何？」では、国連が国際協同組合年を宣言した目的、協同組合への期待、協同組合の一員として自分が取り組むこと、の観点から、2025国際協同組合年を説明するセンテンスをグループ交流しました。さらに「協同組合とは？」では、協同組合はどんな組織であるか、どんな点が好きか、何に貢献しているか、の観点から、協同組合を説明するセンテンスをグループ交流、グループとしてのベストセンテンスを考えました。

研修会を通じて、国際協同組合年や協同組合を自分の言葉でわかりやすく説明し伝えることを考えることで、国際協同組合年の活用や協同組合の必要性への理解がさらに深まり、国際協同組合年を積極的に活用した実践行動へとつながっていくことが期待されます。さらにSDGsをはじめとする社会課題の解決に貢献する協同組合の様々な意義ある活動が、組合員に共有され、そして地域社会により広く伝わり理解され、国際協同組合年の成果として、多くの協同組合の理解者さらには応援者が増えることが望まれるところです。



グループワーク



グループ発表

## ● 鳥取県でIYC2025の取り組みがスタート ～平井県知事が駆け付けエール～

2025年3月10日、鳥取県協同組合連絡協議会は2025国際協同組合年キックオフレセプションを鳥取県の後援で開催し、県内外42団体112名が参加しました。同協議会は、農協・生協・漁協・森林組合・労協・労金の6つの協同組合で構成されています。

当日は、グテーレス国連事務総長のビデオメッセージの上映と県内の協同組合間連

携の取り組みが説明された後、2025国際協同組合年鳥取県宣言が満場一致で採択されました。

来賓として出席した平井伸治知事は「グテーレス事務総長をはじめとする国連や世界が大きなテーマに取り組む際、国や地域を結びつける役割を担っているのが協同組合です。協同組合をサポートする法律の整備など、様々な取り組みがなされる国際年であると考えます。鳥取県は協同組合の活動を全力で支援します。」と力強く語られました。

翌日には、協同組合学習会が開催され、県内の協同組合と鳥取大学からの2名を含む合計100名が参加しました。JCA代表理事専務の比嘉政浩が、国際協同組合年の概要や協同組合に期待される役割を説明し、その後グループ討議を行いました。参加者の1人である鳥取大学の学生は「協同組合は地域でつながっている。それぞれの協同組合がどのような活動をしているのか、もっと知りたい。」と感想を述べました。

同協議会では、今回のキックオフレセプションと協同組合学習会を皮切りに、国際協同組合デー鳥取県の集い、国際協同組合年記念コンサート、協同組合の源流を学ぶ視察研修など様々な取り組みを行う予定です。



開会挨拶をする協議会の栗原隆政会長  
(JA鳥取県中央会 代表理事会長)



来賓として参加された平井伸治知事



活動説明をする協議会の谷垣重彦幹事  
(JA鳥取県中央会 専務理事)



協同組合学習会で登壇するJCA代表理事専務の比嘉政浩

## ● 広島県でIYC2025学習会を開催 ～地域コミュニティをテーマに学び合い～

2025年3月17日、広島県協同組合連絡協議会（HJC）は国際協同組合年における取り組みの一環として学習会を開催しました。同協議会は、JAグループ・JFグループ・生協・森林組合・ワーカーズコープで構成されています。



HJCでは、「持続可能な地域コミュニティと平和」というテーマを掲げて2025年の国際協同組合年に取り組むことにしており、今回は持続可能な地域コミュニティについて学習しました。

当日は、島根県立大学地域政策学部の田中輝美准教授が『「共存同栄」の未来に向けて』という演題で、関係人口やJA遊休施設を活用した地域コミュニティづくりについて講演しました。続いて、日本協同組合連携機構（JCA）の青木寛連携推進マネージャーが、国際協同組合年の概要と全国の取り組み事例を紹介しました。

同協議会では、学習の場を継続して設けることにしており、次回は平和について学ぶ予定です。2025年と2026年の2か年を国際協同組合年の取り組み期間と位置付け、まずは学び合うことで、一層強固な協同組合間連携の基盤をつくることにしています。



参加者に挨拶する岡村信秀会長理事  
(県生協連)



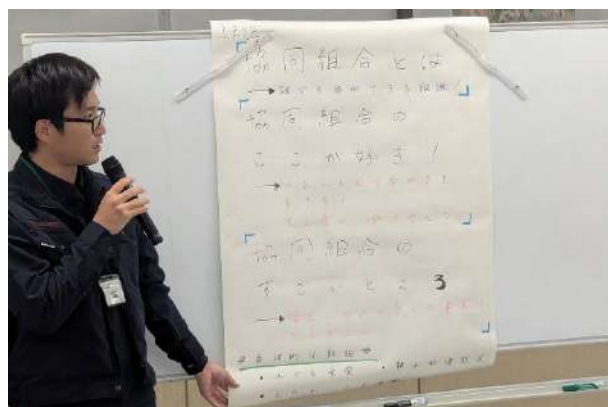
関係人口について講演する  
田中輝美准教授(島根県立大)

## ● 「KJC協同組合研究会」が開催され、協同組合について学びました

鹿児島県協同組合協議会（KJC）が主催する「KJC協同組合研究会」が、2025年3月13日（木）にJA鹿児島県会館で開催されました。

この研究会は、国際協同組合年（IYC）を契機に、各協同組合の役職員が協同組合への理解をさらに深めるとともに、協同組合間の連携を活性化することを目的に開催されたもので、鹿児島県内のJAグループや生協などから約30人が参加しました。

当日は、日本協同組合連携機構の山下常務理事と松尾マネージャーが、「協同組合の存在意義を再認識し発信する」をテーマに講演を行いました。その後、参加者は5つのグループに分かれ、「協同組合とは？」というテーマでグループワークを実施しました。初対面とは思えないほど活発な意見交換が行われ、出席者からは「研究会で学んだことを一人でも多くの人に発信していきたい」といった声が聞かれました。



## ● 茨城県で「協同組合クイズキャンペーン」がスタートしました

茨城県の協同組合連携組織である「協同組合ネットいばらき」では、2025国際協同組合年を記念し、「協同組合クイズキャンペーン」を4月1日より実施しています。

これは協同組合の事業や活動に対する理解促進、認知度向上を目的としたもので、キャンペーン用ウェブサイトから協同組合に関するクイズに挑戦し、抽選で県産品などが当たる企画となっています。クイズにはどなたでもご参加いただけます。



<https://www.ib-ja.or.jp/kyodokumiainetibaraki/>

## ● 茨城県で講演会「賀川豊彦の思想と実践…2025年国際協同組合年を迎えて」が開催(いばらきコープウェブサイトより)

2025年は国連が定める2回目の国際協同組合年です。持続可能な開発目標（SDGs）の実現に向けて協同組合の価値の認知を高めることを求めています。

その一環として、いばらきコープの役職員を対象とした会議の中で、協同組合に対する認知を高めるための講演会を2月14日(金)に開催しました。

また、いばらきコープは茨城県内の生協や農協、漁協、森林組合など47団体で構成される協同組合連携組織「協同組合ネットいばらき」の一員であることから、会員団体および茨城県生協連の役職員の皆さんにもお声掛けをし、オンライン講演会にご参加いただきました。

今回は、賀川豊彦記念松沢資料館 刈谷雅夫様を講師に迎え、「賀川豊彦の思想と実践…2025年国際協同組合年を迎えて」のテーマで講演いただきました。

生活協同組合運動をはじめ、その生涯を"よりより社会づくり"のために捧げた「生協の父」、賀川豊彦氏。実績はスラム街での救貧事業からはじまり、労働組合、農民組合、協同組合、平和運動と多岐にわたりました。刈谷雅夫様の講演を通じて、賀川氏の活躍の源流にある思想に迫り、今の協同組合・生協の果たすべき役割について、考える機会となりました。



今後もいばらきコープはIYC2025国際協同組合年の取り組みを広めて参ります。  
協賛:IYC2025 茨城県実行委員会



賀川豊彦記念松沢資料館 刈谷雅夫氏

## ● 東京都で「2025国際協同組合年東京都実行委員会」が設立～9団体で結成～

3月24日（月）、東京都内の協同組合・協同組織9団体が集まり「2025国際協同組合年東京都実行委員会設立総会」が開催され「2025国際協同組合年東京都実行委員会」（以下、実行委員会）が結成されました。

設立総会では、東京都農業協同組合中央会の野崎啓太郎代表理事会長より「2度目の国際協同組合年を迎えるにあたり、協同組合の価値と認知を高める機会にすべく各団体の連携した取り組みをすすめていきたい」旨の開会挨拶がありました。その後、東京都生活協同組合連合会の秋山純専務理事から実行委員会の設立趣意書、規約、事業計画、実行委員、および代表・副代表の提案があり、承認されました。なお、実行委員会の代表は東京都農業協同組合中央会の野崎啓太郎代表理事会長、副代表は東京都生活協同組合連合会の村上次郎会長理事が選任されました。最後に、東京都生活協同組合連合会の村上次郎会長理事より「連携と継続を大切にした活動に皆さんとともに取り組み、幅広く都民に発信する年とする決意を本委員会の総意として確認・共有したい」旨の閉会挨拶がありました。

今後は、事務局で協議をすすめ、事業計画（①都民対象の協同組合間連携企画、②啓発・広報事業、③実行委員会による他県連携組織交流研修企画）の具体化が進められます。



## ● 長野県協同組合連絡会が通常総会を開催～IYC2025をテーマにJCAが講演～

4月7日（月）、長野県の県域協同組合連携組織「長野県協同組合連絡会」（構成団体12団体）の第55回となる通常総会が開催されました。

当日は、構成団体の役員および幹事約30名参加のもと、すべての議案が承認されました。「令和7年度事業計画」では、「県民に向けた共感づくり、行事・広報の取り組み」として例年継続実施している「長野県協同組合フェスティバル」や「信州まるごと健康チャレンジ」を今年度はIYC2025の「実践する」の取り組みとして展開していくことが確認されました。

また、2月20日（木）に開催した「IYC2025 持続可能な地域社会づくりについて、協同組合とともに考える交流会」では、「IYCを機に協同の輪を広げる」という観点から、社会福祉協議会やNPOなど協同組合以外の組織からの参加者とともに地域課題解決に向けた取り組みについて意見を出し合いました。ここで出された意見をもとに、具体的な取り組みの実施に向けて、幹事会を中心に検討していくことも全体で共有しました。

総会終了後には講演が行われ、JCAの伊藤治郎常務理事が「IYC2025について」登壇しました。IYC2025が制定された背景やIYC2025全国実行委員会での取り組みを紹介したうえで、「学ぶ」「実践する」「発信する」の取り組みを通じて、協同組合に共感し、組合員となり、活動に参加してもらう方を増やしていきましようと呼びかけました。



会長挨拶をする長野県協同組合連絡会  
神農会長（JA長野中央会・各連合会会長）



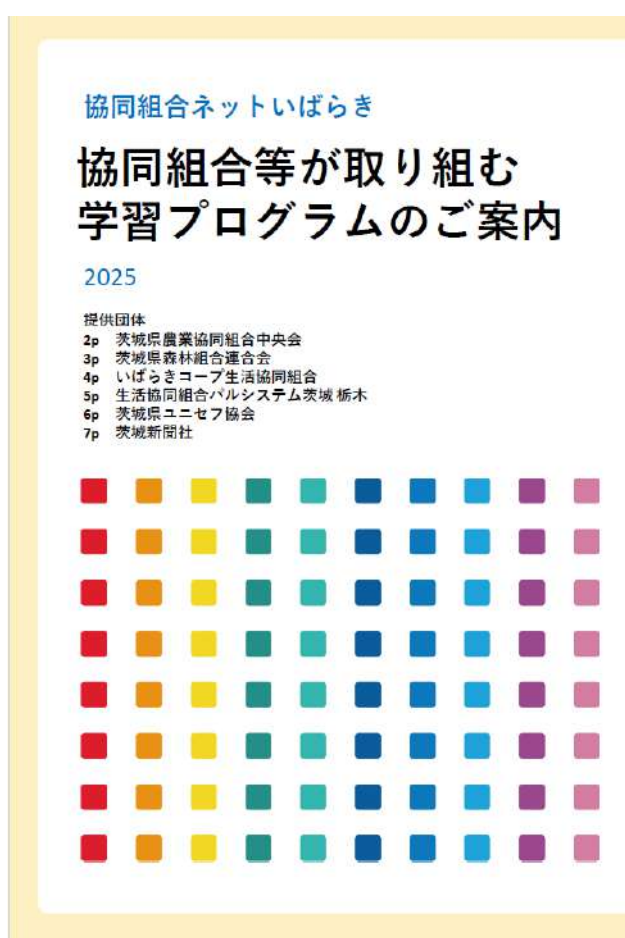
講演をするJCA伊藤常務理事

## ● 茨城県で「学習プログラム紹介パンフレット」を作成し、小中学校へ周知～協同組合を次の世代につなぐ～

茨城県の協同組合連携組織である「協同組合ネットいばらき」（構成団体：47団体）では、2025国際協同組合年を機に、構成団体で取り組んでいる出前授業や体験学習などの学習プログラムを紹介するパンフレットを作成しました。

協同組合ネットいばらきの構成団体では、食育や防災をテーマとした各種体験学習や、職場体験など様々な学習プログラムを実施しています。このパンフレットでは、次世代を担う子どもたちに協同組合について知ってもらい、興味を持ってもらうことを目的に、主に小中学生を対象とした学習プログラムを1冊にとりまとめています。

作成されたパンフレットは、県の教育委員会を通じて、各小中学校への周知を依頼しました。



「協同組合ネットいばらき 協同組合等が取り組む学習プログラムのご案内 2025」

<https://www.japan.coop/wp/wp-content/uploads/2025/04/4dda31d0c1daa16f1c49ca3fb2596d7e.pdf>



## ● 2025年度千葉大学寄附講座が開講されました

2025年度の千葉大学寄附講座「非営利市民事業と協同組合」が4月11日に開講されました。

本講座は、学生に協同組合の理念、仕組みや意義を理解してもらうことを目的に、前回2012年の国際協同組合年を契機に、2014年10月より継続開講されています。2回目の国際協同組合年となる本年度は、国際協同組合年や協同組合のアイデンティティについて、より深く学ぶ機会となるよう計画しています。

本年度も関係団体にJCAが協力し、テーマごとにオムニバス形式で講義を行うこととしており、第1ターム(4/11～5/30の全8回(メディア授業含む))、第2ターム(6/13～7/25の全8回(メディア授業含む))の2ターム制となっています。

4月11日の初回講義では、担当講師の石澤先生からの協同組合の歴史や非営利組織としての協同組合などについてのガイダンスに続き、千葉大学生協・柴崎専務から「大学生協」をテーマに、学生の身近な存在である千葉大学生協の運営の仕組みや活動内容などについての解説がありました。

4月18日の第二回目講義では、JF全漁連・廣渡副調査役から「第一次産業協同組合(漁業)」をテーマに、漁業協同組合の歴史や組合員資格、事業内容や取組方針などについて解説がありました。

履修登録者は現時点で555名にのぼるなど、本講座への学生の関心の高さが窺われ、いずれの講義も、講義室の座席からあふれる学生が出るなか、多くの学生が興味をもって講義内容に聞き入る姿勢が印象的でした。

※この講座は、2025国際協同組合年全国実行委員会後援事業として認定されています。



講義風景



## <講座スケジュール>

### 第1ターム

日程	実施内容(テーマ等)	講師団体等
4月11日(金)	ガイダンス・大学生協	石澤先生、千葉大学生協
4月18日(金)	第一次産業協同組合(漁業)	JF全漁連
4月25日(金)	協同組合の医療・福祉	医療福祉生協連
	協同組合概論(メディア授業)	JCA
5月2日(金)	協同組織金融	農林中金総合研究所
5月16日(金)	購買生協(宅配・店舗事業)	生活クラブ生協
5月23日(金)	協同労働の協同組合	ワーカーズコープ
5月30日(金)	協同組合の研究室から	法政大学研究室

### 第2ターム

日程	実施内容(テーマ等)	講師団体等
	ガイダンス・IYC2025(メディア授業)	石澤先生、JCA
6月13日(金)	購買生協(宅配事業)	パルシステム千葉
6月20日(金)	協同組合の福祉事業	全国コープ福祉事業連帯機構
6月27日(金)	第一次産業協同組合(林業)	千葉県森林組合連合会
7月4日(金)	共済事業(保険)	共栄火災
7月11日(金)	中小企業等協同組合	全国中小企業団体中央会
7月18日(金)	協同労働の協同組合	ワーカーズ・コレクティブ
7月25日(金)	協同組合の研究室から	法政大学研究室

## ● 茨城大学の寄付講座「協同組合論」で講義しました

4月22日(火)、茨城県内47の協同組合・関係団体で構成する協同組合ネットいばらきが開講する茨城大学寄付講座「協同組合論」(担当教員 井上拓也教授)にて講義を行いました。

本講座は、若い世代に協同組合の事業や協同組合が取り組んでいる社会貢献活動についての理解を深めていただくことを目的に開講しています。全14回の講義のうち、第2回の「協同組合とは」についてJCAが担当しました。

講義では、JCAの小島連携推進マネージャーが「協同組合の基礎知識」をテーマとして、日本の協同組合の組織や事業内容、協同組合のアイデンティティや協同組合の歴史などを説明しました。また、2025年は国際協同組合年であり、今協同組合が注目されていることと、その背景についても述べました。

授業の最後には、グループ討議を行い、「みんなで力を合わせて願いを実現する」ということについて考えました。



## ● 鹿児島県協同組合協議会(KJC)の主催で2025国際協同組合年映画「二宮金次郎」を上映

2025年4月23日（水）、鹿児島県協同組合協議会（KJC）の主催で、映画「二宮金次郎」の無料上映会を開催しました。国際協同組合年のこの機会に、日本の協同組合の原点といえる「二宮金次郎」の生涯を描いた映画を上映することで、協同組合への理解を深めていただくことを目的としました。

上映会は各組織の役職員に加え、広く県民の皆様にも周知し、約460名の方々にご来場いただきました。また、事前申し込みの際に調査した「国際協同組合年の認知度」は非常に低かったですが、来場者には国際協同組合年やKJCの活動が分かるパンフレットを配布し、国際協同組合年や協同組合の認知度向上につなげることができました。



## ● 山口県でIYC2025実行委員会形成にむけた幹事団体代表者会議を開催～連携組織の構築を見据えて～

4月23日（水）、山口グランドホテルに県内の多様な協同組合が集まり、2025年の国際協同組合年（IYC2025）における実行委員会づくりと取り組みを協議しました。

当日、集まったのは、農協・漁協・森林組合・生協の代表者で、実行委員会を組織し、力を合わせて取り組みをすすめることが決まりました。具体的な活動内容としては、国際協同組合デーに向けた学習会開催のほか、市町首長が集う生協の既存事業「ピースフォーラム」・「農業まつり」・「漁協まつり」等に実行委員会としてブース出展やパネル展示をすること、イベントのあいり開催などが計画案に上がっています。また、県が農林水産物の販売拡大のために開発したLINEアプリ「ぶちうまアプリ」と連携したキャンペーンやSNSを活用した広報にも取り組む計画案があります。

また、国際協同組合年の終了後も協同組合間連携を一層発展・継続させるために、協同組合の連携組織（山口県協同組合ネット・仮称）の構築を本実行委員会で検討することも決まりました。全国ではすでに42の県域で連携組織が設立されていますが、これが実現すれば、国内43番目の連携組織が発足することになり、山口県だけでなく、日本の協同組合にとっても大きな節目となります。

JCAは、学習会への出講や連携組織の立ち上げに向けた情報提供などを通して、山口県のIYC2025の取り組みを支援する予定です。



今回参加した県内協同組合の代表者